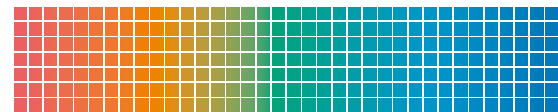




デンカグループ  
CSR報告書  
2014  
サイトレポート



CONTENTS

- 2 青海工場
- 4 大牟田工場
- 6 千葉工場
- 8 渋川工場
- 10 大船工場
- 12 伊勢崎工場
- 14 デンカイノベーションセンター
- 16 メルバウ工場(デンカシンガポール プライベートリミテッド)
- 17 セラヤ工場(デンカシンガポール プライベートリミテッド)
- 18 トアス工場(デンカアドバンテック プライベートリミテッド)
- 19 サウス工場(デンカアドバンテック プライベートリミテッド)
- 20 電化精細材料(蘇州)有限公司
- 21 電化新材料開発(蘇州)有限公司
- 22 デンカポリマー株式会社
- 23 デンカ生研株式会社
- 24 シー・アール・ケイ株式会社
- 25 日之出化学工業株式会社
- 26 デンカアヅミン株式会社

「いつまでも  
信頼されるものづくり企業」を目指して

# 青海工場



## 事業所概要

**工場概要** 1921年の設立以来、石灰石の可採埋蔵量50億トンの黒姫山、18万kWの自家発電設備などの豊富な自社資産を活かし、独特のカーバイド化学を推進しています。石灰窒素、クロロプレナム、セメントなど幅広い製品を生産するとともに、近年では無機ファインケミカル、医薬品への展開も図るなど、事業の多角化、高度化を進めて、多彩な化学領域への挑戦を続けています。

- 主要製品**
- エラストマー・機能樹脂部門/クロロレン、ポパールほか
  - インフラ・無機材料部門/セメント、特殊混和材、カーバイド、石灰窒素、アルセンほか
  - 電子・先端プロダクツ部門/モノシランガス
  - 生活・環境プロダクツ部門/ヒアルロン酸製剤
  - その他/養鰻

**所在地** 新潟県糸魚川市大字青海2209 Tel.025-562-6105

**従業員数** 865名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

化学会社として、近隣で産出する石灰石から、地域社会のリサイクル資源に至るさまざまな資源を原料に、社会に役立つ製品(材料)を生産しています。

その過程で、危険なものを安全に取り扱うこと、環境を汚す有害なものを工場から出さないことは、この地域で生産活動を継続していく上でとても重要であると考えています。

従業員の一人ひとりが「仕事に誇りが持てる」「やり甲斐がある」と実感できる職場環境づくりに取り組むとともに、地元地域へ貢献することを意識して、地域の方々との対話を大切にして、信頼される工場を目指します。



常務執行役員 青海工場長 玉木 昭平

## CSR方針

### 工場長方針

「仕事に誇りが持てる」「やり甲斐がある」職場環境を目指し、「部門が一体となった変革」によって「DENKA 100」に向けた青海工場の再構築を具現化する。

### 安全の確保

現場力強化=安全活動と捉え、そのために部門で一つに絞り込んだ課題に徹底して取り組む。

### 環境負荷低減と社会貢献

高い環境負荷低減に繋がる課題に一人ひとりが取り組み、地域貢献を含めた社会貢献を具現化していく。

### 品質管理

高い品質意識と技術力により、さらなる品質向上を目指して顧客の信頼性を深めていく。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

万一の化学プラントでの災害への対応として、各種防災訓練を行っています。糸魚川市消防本部の協力のもと「工場総合防災訓練」を実施しました。訓練は、プラント火災を想定し、初期通報、消火・救助活動、鎮火・最終確認まで、迅速な対応ができるように12項目の訓練を行いました。また、姫川港での大地震災害への対応訓練として、「姫川港総合防災訓練」に参加しました。



姫川港総合防災訓練での救助訓練



工場総合防災訓練での消火訓練

### 環境

環境への負荷を低減するための工場設備の改善を推進しています。燃焼設備のグリーンエネルギー化を進めるために、燃料を重油からより環境にやさしい天然ガスへ転換するとともに、産業廃棄物のリサイクル利用強化として、セメント設備への塩素低減化設備の設置と投入設備の改善を行い、多くの廃プラスチックの処理を可能にしました。

また、地域の環境改善活動として、河川愛護月間に「姫川クリーン作戦」へ参加し、官民一体となり河川環境改善に努めております。



姫川河川敷での清掃風景



姫川クリーン作戦に参加した工場従業員

### コミュニケーション

青海工場では、地域とのコミュニケーション活動の活性化を目的に地域のイベントへの参加や工場周辺地域の清掃活動などを積極的に行っており、2013年度の主な活動として「ヒスイ山岳マラソン」への運営スタッフとしての参加や、地区の子どもたちを対象とした科学イベントへ積極的に参加しました。

今後も継続的に地域貢献活動を行い、地域から信頼される企業を目指します。



ヒスイの里山岳マラソンの運営スタッフとして参加



多くの子どもたちで賑わう当社ブース

### 環境パフォーマンス

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	90年度比	0.97	0.96	0.94	0.90	0.94
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	76	77	83	84	92
PRTR法対象物質排出量	トン	12	17	18	14	12
NOx排出量	トン	2,750	2,820	2,940	3,390	3,010
SOx排出量	トン	120	94	81	61	54
ばいじん排出量	トン	103	114	86	67	117
水利用量	千m <sup>3</sup>	66,300	67,200	64,000	63,000	—
COD(BOD)排出量	トン	1,570	1,270	850	850	1,140
産業廃棄物発生量	トン	83,900	105,200	109,870	101,260	114,420
廃棄物最終処分量	トン	160	143	100	69	110

# 大牟田工場



## 事業所概要

**工場概要** 大牟田工場は1916年に当社として最初に建設された工場です。カーバイド、石灰窒素の製造からスタートし、無機化学品の製造拠点として独自の電炉技術、高温制御技術、窒化技術をベースにユニークな製品を数多く生み出してきました。近年では、ファインセラミックス、電子材料領域へ進出しています。エレクトロニクス、自動車産業など幅広い産業の発展に貢献していきます。

**主要製品**

- インフラ・無機材料部門／カルシウムカーバイド、石灰窒素、鉄鋼用耐火物、アルミナセメント、特殊混和材
- エラストマー・機能樹脂部門／アセチレンブラック
- 電子・先端プロダクツ部門／溶融シリカファイバー、球状アルミナ、窒化けい素、窒化ほう素、セラミックス系電子回路基板、電子部品用放熱シート、セラミックス複合体、LED用蛍光体

**所在地** 福岡県大牟田市新開町1 Tel.0944-52-1055

**従業員数** 635名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

大牟田工場は、当社創立翌年の1916年に設立された最も歴史のある工場であります。これまで多くのステークホルダーの皆さまに支えられ、多くの困難を乗り越えて事業を継続してまいりました。当社は2015年4月に100周年を迎えますが、大牟田工場がさらに次の100年に向けて名実ともに信頼され、「自立した主力工場」となるために、安全の確保に努め、品質の基盤を強化し、収益の向上と新技術・新製品の創造への日頃からの努力を怠らせずに経営計画「DENKA100」の目標にまい進してまいります。



常務執行役員 大牟田工場長 狩野 利春

## CSR方針

### 2014年度 工場長方針

#### 1. 変化に強い工場を創る。

- ① お客様を増やし、新たな製品を増やす。
- ② 原材料は安く買い、効率良く使い切る。
- ③ 外に頼らず一人当たりの仕事を増やす。

#### 2. 保安・安全は無事故・無災害が目標である。

- ① 場内で働くすべての人は大牟田工場の従業員である。
- ② 場内では緊張感を持って作業する。
- ③ 管理者の危険予知の責任と、作業者の行動の責任は厳しく追及する。

#### 3. 品質はトップの技術の勝負である。

- ① 品質は管理者の技術力の評価である。
- ② 再発を防止して顧客の信用を勝ち取る。
- ③ 品質はプロセスで造り、合否は機械で判定する。

#### 4. 新たな価値を創造し未来に繋げる。

- ① 付加価値重視の研究を推進する。
- ② お客様の要望に迅速に取り組み、成果は収益に反映させる。
- ③ 研究目標は数値化し、納期は厳守する。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 環境

春と秋の年2回、地域公民館と合同で清掃ボランティアを実施しました。さらに、年2回行われる大牟田市主催の「列島グリーンキャンペーン」にも参加しました。

当工場は大きなエネルギーを必要とする生産プロセスが多く存在するため、省エネと環境負荷低減を推進すると

ともに、廃棄物削減を進めました。



清掃ボランティア

### コミュニケーション

#### ① こども化学教室の実施

近隣の小学校へ出向き、地元の小学生を対象とした、化学教室を実施しました。

また、大牟田市主催で開催された「おおむたエコタウンフェア」にも参加し、化学実験教室を行いました。



エコタウンフェア(マイペットボトルづくり) おおむた大蛇山まつり



#### ② 「おおむた大蛇山まつり」参加

起源が300年以上前に遡るともいわれる夏祭り、「おおむた大蛇山まつり」の「1万人の総踊り」に、総勢約100名の従業員が参加しました。

#### ③ 工場見学

地域団体や学生、先生、PTAの方々の工場見学を行い、当社に関する理解を深めていただきました。



先生・PTAの皆さんの工場見学



献血活動

#### ④ 献血活動

年2回の献血活動を行い、2013年度は延べ291名が参加しました。

## 2014年度の取り組み

- 地域への貢献として、こども化学教室の活動を拡大し、子どもたちへ化学の面白さを伝えていきます。
- 無事故・無災害を達成するために、工場内すべての人が緊張感を持って作業に取り組みます。
- 経営環境の変化に強い工場にするために、一人ひとりが効率よく仕事を進めます。

- 名実ともにデンカグループの主力工場になるための活動を推進してまいります。



こども化学教室

### 環境パフォーマンス

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	90年度比	0.91	0.90	0.94	0.94	0.89
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	11	11	13	12	12
PRTR法対象物質排出量	トン	17	25	7	7	7
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	1,120	940	850	790	940
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	1	1	1	1	1
ばいじん排出量	トン	3	6	3	5	5
水利用量	千m <sup>3</sup>	1,310	1,390	1,220	1,190	1,200
COD(BOD)排出量	トン	1	2	1	1	1
産業廃棄物発生量	トン	8,670	13,600	7,400	8,680	8,075
廃棄物最終処分量	トン	71	39	22	72	17

# 千葉工場



## 事業所概要

**工場概要** デンカの石油化学部内の拠点である千葉工場はスチレンモノマーを源流としたポリスチレン、ABS樹脂、SBC樹脂、透明樹脂などスチレン系樹脂、EVAエマルジョン、アクリル系ゴムなどの石油化学系製品と、OPSシートや塩ビテープ、建材などの樹脂加工製品を製造しています。

**主要製品** ● エラストマー・機能樹脂部門/スチレンモノマー、ポリスチレン\*、ABS樹脂、透明樹脂、耐熱性樹脂、SBC樹脂「クリアレン」、EVAエマルジョン、ERゴムなど（※関連会社製品）

● 生活・環境プロダクツ部門/食品包材、建材、塩ビテープなど

**所在地** [千葉工場] 千葉県市原市五井南海岸6 Tel.0436-26-3200  
[美唄分工場] 北海道美唄市東五条北10-1-1 Tel.0126-62-1444

**従業員数** 474名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

千葉工場は、会社創立100周年を迎える2015年に操業開始50周年を迎えます。次の50年も引き続き地域・社会に貢献し、ともに発展・存続する、ものづくりの場でありたいと考えています。昨年来頻発している事故・災害の反省に立ちながら、「環境および安全の確保」が生産活動の最重要課題であることを再認識して、以下の活動に工場全員が地道に取り組んでいます。

- 法令遵守
- 現場力の強化=人財の育成  
(技術・技能・Know-Whyの伝承、意識改革/当事者意識の醸成)
- 保安、安全衛生および環境・品質のマネジメントシステムの活用と継続的改善
- 省エネ・省資源および環境負荷低減
- 地域社会への貢献活動



執行役員 千葉工場長 小泉 健

## CSR方針

### 》》 2014年度 工場長方針

- 「DENKA100」新戦略のもと、「事業構造の変化」、「新規事業への展開」および「新製品開発」に積極的にチャレンジする。また、「徹底したコストの総点検」により国際競争力を強化し、安定収益の確保と数値目標の達成を図る。
- 「CHIBA50」活動を積極的に進め、「継続的な発展に向け、変化を遂げる千葉工場」の次の50年への礎を築く。
- 人財の育成、技術・技能の伝承、および技術の進化を着実に進め、「現場力」で安全・衛生、環境・保安、および高品質の確保を図り、信用と信頼の千葉工場を構築する。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

現場力の強化と、自らの職場を大切に思い、主体的に行動する当事者意識の醸成を促すため、「MPC(My Plant Chiba)活動」を開始し、「全員参加の挨拶活動」をはじめ事故・災害防止のための意識改革を推進しています。また、工場に入構される、従業員、協力会社をはじめとする皆さんの安全を確保するため、入構者教育の見直しを実施しています。書類による説明から映像によるプレゼンテーショ

ンへ変更するとともに、さらに理解度を確認するテストを実施しています。今後も保安管理・安全衛生管理システムの継続的改善と安全・安定操業の実践を進め、安全文化の醸成と、保安・安全活動の推進に努めます。



映像による入構者教育

### 環境

#### 緑のカーテンコンテストに参加

市原市主催の緑のカーテンコンテストに参加しました。緑のカーテンとは、ツル性の植物を建物の壁や窓の外側に伸ばすもので、太陽光を遮り、葉の蒸発作用により温度の上昇を抑制するとともに、緑化による二酸化炭素削減につなげていきます。



工場総合事務所の緑のカーテン(ゴーヤ)

#### 環境負荷物質(SOx、CO<sub>2</sub>)の削減

工場ボイラーの燃料を重油から環境負荷物質の排出量の少ないガス燃料に完全移行しました。今後も「第5次環境中期計画」達成を目標に、省エネルギー、資源の有効利用(廃棄物の削減)、環境負荷物質の削減に努め、地域の皆さんや関係諸官庁との連携をさらに深めながら、地球温暖化防止の推進と環境改善活動に積極的に取り組んでいきます。

### コミュニケーション

地域との信頼関係の強化のため、「五井臨海まつり」[中房総国際芸術祭いちほらアート×ミックス]等の地域行事や会合等に積極的に参加しています。さらに県内の小学生、高校生や、千葉人権擁護委員の皆さんをはじめとする各種団体の工場見学会を行い、工場への理解を深めていただいています。

このたび市原市より、これまでの功績が認められて、市制施行50周年特別表彰(産業・情報功労者)を受賞しました。



県内高校生工場見学



市原市制施行50周年特別表彰

### 環境パフォーマンス

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	90年度比	0.87	0.89	0.96	0.91	0.88
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	43	46	34	33	46.1
PRTR法対象物質排出量	トン	86	92	73	66	67
NOx排出量	トン	448	479	260	263	213
SOx排出量	トン	129	122	33	20	23
ばいじん排出量	トン	5	8	3	0.9	3
水利用量	千m <sup>3</sup>	9,700	9,690	9,580	9,600	—
COD(BOD)排出量	トン	23	22	13	10	18
産業廃棄物発生量	トン	18,300	18,100	14,280	12,860	11,000
廃棄物最終処分量	トン	40	23	39	52	39

# 渋川工場



## 事業所概要

**工場概要** 渋川工場は1951年に塩化ビニル系樹脂の製造拠点として開設されました。1976年に構造用接着剤「ハードロック<sup>®</sup>」の製造を開始、さらに1984年には電子材料事業に本格参入して事業領域の転換を進めてきました。現在は、電子回路基板、放熱部材、エミッター、構造用接着剤、仮固定用接着剤や半導体プロセス関連製品などのエレクトロニクス関連製品の生産に特化し、デンカの有機系電子材料の中核拠点として成長戦略の一翼を担っています。

**主要製品** ●電子・先端プロダクト部門/高熱伝導性アルミニウム基板「ヒットプレート<sup>®</sup>」、放熱部材「放熱スパーサー」、熱陰極源「TFE<sup>®</sup>」[LaB6カソード]、機能性粘着フィルム「エレグリップ<sup>®</sup>」、構造用接着剤「ハードロック<sup>®</sup>」、光硬化型接着剤「ハードロック<sup>®</sup> OP/UV」、仮固定用接着剤「テンプロック<sup>®</sup>」

**所在地** 群馬県渋川市中村1135 Tel.0279-25-2109

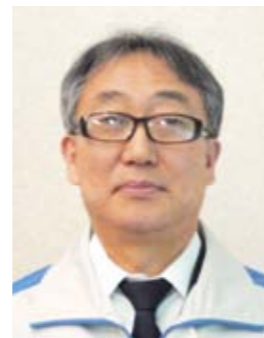
**従業員数** 395名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

渋川工場では、先日、残念ながら1,057日ぶりに災害が発生いたしました。災害そのものは軽傷で済みましたが、工場全体で気の緩みがなかったか、協力会社を含め工場全体で働く全従業員が真剣に考える必要があると感じています。

当工場は、働く全従業員が安全で安心して働ける明るく元気な職場づくりを目指しており、そのためには一人ひとりの意識向上が不可欠です。当工場の人財育成の基本は、『一人ひとりが第一人称で考え、行動する人財』を育てることです。

当社は2015年に創業100周年を迎えますが、渋川工場として次の100年に向けて、社会から地域から信頼される工場を目指したいと思います。



渋川工場長 平野 秀樹

## CSR方針

- ① 法令遵守の徹底
- ② 工場で働く一人ひとりが安全で安心して明るく元気に働ける風土を作る
- ③ 行政・地域とのコミュニケーション強化
- ④ 「DENKA100」新成長戦略3本の矢の実現



中村用水堰き直し



総合防災訓練



理科実験教室

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

渋川工場では、2013年に『規律訓練室』および『保全訓練室』を設置しました。『規律訓練室』では、安全意識の向上と指差確認の重要性を実感するための実地訓練を行い、『保全訓練室』では、実際の工具を使い、それぞれの工具の危険性を実感し、安全意識の向上に繋がります。

今後は、従来の安全活動に加え、女子従業員向けの教育や階層別教育を充実させていく予定です。



指差確認訓練

### 環境

渋川工場では、旧八木原工場跡地の有効活用とクリーンエネルギーの利用拡大を目的にメガソーラー（DENKAソーラーパワーしづかわ）を設置しました。発電量は、2.2メガワットで一般家庭が1年間に消費する電気の900世帯分の発電を行っています。発電した電力は、すべて東京電力に供給しています。

今後も省資源化、省エネルギー化およびCO<sub>2</sub>の排出量の削減に取り組んでいきます。



DENKAソーラーパワーしづかわの全景

### コミュニケーション

渋川工場では、労使共催で春にはソフトボール大会、秋にはミニ運動会を開催しています。毎年多数の従業員や協力会社と家族の方々にご参加いただき、職場間はもちろん、職場の垣根を越えたコミュニケーションの向上に役立っています。

今後も、コミュニケーションの向上に繋がるさまざまな行事を継続してまいります。



春のソフトボール大会

### 環境パフォーマンス

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	90年度比	0.74	0.78	0.78	0.83	0.68
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	1.0	1.0	1.0	0.7	0.8
PRTR法対象物質排出量	トン	6	4	3.8	2.9	4.8
NOx排出量	トン	10	6	5	10.9	8.4
SOx排出量	トン	10	1	0.9	1.5	1.1
ばいじん排出量	トン	0	0	0.02	0.06	0.02
水利用量	千m <sup>3</sup>	2,580	2,520	2,460	2,400	—
COD(BOD)排出量	トン	3	3	3.2	3.5	2.4
産業廃棄物発生量	トン	479	416	369	382	381
廃棄物最終処分量	トン	3	2	1.3	1.3	1.4

# 大船工場



## 事業所概要

**工場概要** 大船工場は押出成型・粘着塗工・製膜加工における先進的な技術を活かした製品を生産しています。世界的ブランドとなったウィッグ・ヘアピース用の合成繊維原糸「トヨカロン®」、手切れ性などの機能性に特長を持つ包装テープ、横切れ性ポリエチレンフィルム「Yフィルム」などの多彩な製品を製造する樹脂加工製品の核拠点です。

**主要製品** ●生活・環境プロダクツ部門/ウィッグ・ヘアピース用合成繊維、包装資材、機能性フィルムなど

**所在地** 神奈川県鎌倉市台2-13-1 Tel.0467-45-1110

**従業員数** 185名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

「日本を代表する文化・歴史・環境を持つ鎌倉市に立地する大船工場として、地域社会への貢献と共生を目指す」を理念に掲げ、地域社会との対話・交流を積極的に推進しています。

環境負荷低減では、生産プロセスの見直しによる温暖化防止(省エネ、CO<sub>2</sub>削減)活動を推進し、排出物質削減や廃棄物の削減および分別によるゼロエミッションに引き続き取り組んでいます。また、開発から廃棄までの生産活動における環境保全に取り組むとともに、地球環境の改善に繋がることを自負できるような、品質面を含めた社会のニーズに沿った製品の開発、製造を行っています。

安全活動では、自らの安全を守るだけでなく、工場で働くすべての仲間の安全を守るという意識を工場全体に浸透させ、信頼と協調に基づく安全文化の醸成を図り、安全で安心して働ける職場環境づくりをさらに進めてまいります。



大船工場長 渡部 秀樹

## CSR方針

### 2014年度 工場長方針

工場スローガン「工場一丸となって、信頼と協調で築こう安全文化、熱意と技術で拓こう未来」 「DENKA100」新成長戦略に沿って、信頼と協調の関係の中、一人ひとりが自らの意識を変革し、目標に向け積極的にチャレンジする精神を発揮するため、以下の4項目を推進していきます。

- ①安全・保安・衛生の確保
- ②RC活動の深耕
- ③現場力の強化と開発推進による工場基盤強化
- ④熱意と技術による取り組み

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

災害・事故の芽を摘む活動として「ヒヤリハット」活動を展開していますが、表彰制度・提案様式を見直してさらなる活性化を図ったことで、提出件数が前年度に比べ2倍となりました。今後も全従業員が参加する安全活動を推進し、安全で安心して働ける職場づくりに取り組んでいきます。

保安の確保として、地震・火災を想定した総合防災訓練を実施し、自衛消防隊による放水訓練、伝達訓練、避難訓練から有事の際の対応手順について確認を行いました。

また、神奈川県労働局長より安全衛生活動が優秀であると評価され、奨励賞を受賞しました。



総合防災訓練



神奈川県労働局長より奨励賞を受賞

### 環境

公害防止に関する活動、大気・水・土壌環境の保全に顕著な功績を上げたことが認められ、神奈川県知事より表彰を受けました。

印刷工場のVOC(臭気)対策として、揮発性溶剤量低減を目的に工程改善を進め、労働安全衛生法が定める作業環境の管理区分をⅡ→Ⅰに下げました。また、スリッター工室の騒音についても設備改善を実施し、管理区分をⅢ→Ⅰに下げ作業環境を改善いたしました。

今後も環境負荷の計画的な低減に努めてまいります。



神奈川県知事より表彰

### コミュニケーション

地域交流と社会活動を積極的に進めており、2013年度も7月6日の近隣町内会の夏祭りに工場正門の広場を提供するとともに、模擬店の出店や軽音楽部による演奏等で近隣住民の皆さまとの交流を深めました。

また、地域の小中学校が、社会科教育の一環として実施している地域企業の工場見学の受け入れを行い、多数の小中学生(122名)が当工場を訪れました。

後日、見学した小・中学生から感想やお礼の寄せ書き

をいただき、当工場を知ってもらう良い機会となりました。今後も地域社会との対話・交流を推進していきます。



近隣町内会の夏祭り



地元小学生の工場見学

### 環境パフォーマンス

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	02年度比	0.79	0.75	0.77	0.78	0.72
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	1	1	1	0.8	0.8
PRTR法対象物質排出量	トン	1	1	1	0.5	0.5
NOx排出量	トン	2	2	2	2	2
SOx排出量	トン	0	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	0	0	0	0	0
水利用量	千m <sup>3</sup>	96	59	51	46	—
COD(BOD)排出量	トン	0	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	199	124	110	167	100
廃棄物最終処分量	トン	30	30	17	16	11

# 伊勢崎工場



## 事業所概要

**工場概要** 伊勢崎工場は、ポリスチレン、塩化ビニルなどを原料とするシート・フィルムの製造を行っています。食品包装材料や電子包装材料といった、高性能でかつ徹底した品質管理が必要な用途へ製品を供給しながら、加工技術の向上と、高付加価値製品の開発に取り組んでいます。

**主要製品** ●電子・先端プロダクツ部門／半導体、各種電子部品の搬送工程で使用されるキャリアテープ、トレイおよびカバーテープなど  
●生活・環境プロダクツ部門／各種食品包装用シートやストレッチフィルム、太陽電池モジュールのバックシート材料

**所在地** 【伊勢崎工場】群馬県伊勢崎市長沼町西河原245 Tel.0270-32-1251  
【伊勢崎工場(太田地区)】群馬県太田市世良田町3015 Tel.0276-52-4111

**従業員数** 238名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

伊勢崎工場は、CSRビジョンの「いつまでも信頼される、ものづくり企業」を目指し、高性能・高品質なプラスチックフィルム・シート製品を提供することが社会的使命と考えています。そのために、製品開発の段階から環境にやさしい製品設計、省エネルギー・省資源の生産技術、安全で安定した製造を心がけて、生産活動を行っています。また、グリーンエネルギーの活用として太田工場の屋根には当工場生産したDXフィルムを使用するソーラーパネルの太陽光発電設備を設置し、稼働させています。さらに近隣道路や公園の清掃活動などにも取り組んでおり、従業員一人ひとりがCSR活動の「デンカグループ行動指針10か条」を理解し、地域社会から信頼される工場を目指しています。



伊勢崎工場長 田口 広一

## CSR方針

安全で安心して働ける工場、顧客満足度の高い工場、高収益で働きがいのある工場を目指す。

### 安全・衛生

- 安全をすべてに優先し、全員が一丸となった安全活動を行い、無事故・無災害を達成する。
- 労働衛生の継続的改善を図り、働きがいのある職場の創造を目指す。

### 品質

- 苦情の原因を明確化して本質的な改善を行い、再発を防止する。
- 全員の衆知を集めて改善を行い、品質を製造工程で作り込む。

### 環境

- 環境にやさしい製品の研究開発を推進する。
- 生産工程の省エネルギー化・省力化を推進する。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

不安全状態の対策として、社内外の災害事例を横展開し、同種の災害の芽を摘み取る活動や、リスクアセスメントで抽出されたリスクの低減活動に取り組みました。また、不安全行動の対策として、作業手順書の整備と指差確認呼称の定着化に注力しました。これらの活動に全員参加で継続的に取り組んできたことにより、安全成績は着実に向上しておりますが、今後も風化防止を考慮しながら、安全文化の定着に努めていきます。



指差確認呼称の実施

### 環境

2013年に太田地区に導入した太陽光発電設備では、約300世帯の年間電力を賄う年間1,000MWhの電力を発電し、温室効果ガスの削減に寄与しています。

また、持続可能な循環型社会の構築のために、廃棄物最終処分量ゼロに継続的に取り組み、4年連続で廃棄物ゼロエミッションを達成しております。

今後もゼロエミッションはもちろんのこと、限りある資源の有効利用のため、産業廃棄物発生量そのものについても計画的に削減を進めてまいります。



太陽光発電設備 (太田地区建屋の屋根に設置)

### コミュニケーション

従業員の一体感の醸成を目的として、労働組合とさまざまな行事を行っています。毎年恒例となっているボウリング大会では、半数以上の従業員が参加し、バスハイクでは、従業員の家族も一緒に「デンカビッグスワンススタジアム」へのサッカー観戦や東京ディズニーランドを訪れ、その他にもウォーキングやバーベキューなど、さまざまな交流を図っています。また、地域社会とのコミュニケーションとして、定期的に公園や歩道の清掃活動を実施し、地域の美化・景観維持に貢献しています。



バスハイクに参加した従業員と家族



近隣公園の清掃



デンカビッグスワンススタジアムにて

### 環境パフォーマンス

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	05年度比	0.97	0.99	0.95	1.02	0.96
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	2	2	2	1.6	2.5
PRTR法対象物質排出量	トン	0	0	0	0	0
NOx排出量	トン	0	0	0	0	0
SOx排出量	トン	0	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	0	0	0	0	0
水利用量	千m <sup>3</sup>	412	422	483	427	—
COD(BOD)排出量	トン	0	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	207	239	178	145	200
廃棄物最終処分量	トン	0	0	0	0	0

# デンカイノベーションセンター



## 事業所概要

**研究所概要** デンカイノベーションセンターの歴史は、1962年の目黒研究所（東京都目黒区）からの移転に始まります。これまで無機化学、セラミックス、有機化学、石油化学、バイオや樹脂加工分野などで多くの基盤技術を創出し、当社事業を確立する礎となってきました。これからもデンカグループの研究開発の中心拠点として、基盤技術のさらなる深耕を進めながら、大型次世代製品の開発や中・長期的テーマの研究開発活動に注力していきます。

**所在地** 東京都町田市旭町3-5-1 Tel.042-721-3611

**従業員数** 163名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

デンカグループの研究開発の拠点となる「デンカイノベーションセンター」本館を2014年4月3日に竣工し、本格運用を開始しました。これを機に、今後成長が期待されるライフサイエンス事業強化の一環として、ライフイノベーション研究所をセンター内に新設するとともに、従来の組織を先進技術研究所、インフラソリューション開発研究所へ格上げして3つの研究所の体制に強化いたしました。

デンカグループの総合力を結集するとともに、本センターを「オープンイノベーション」の中核拠点と位置づけて、産学官との相互の成長につながる共同研究開発を進めてまいります。

未来を切り拓く気概を持ち、画期的な新しい製品やソリューションの創造にチャレンジして、グループ一丸となった、新たなイノベーションを起こしていきたいと思っております。



常務執行役員  
イノベーションセンター担当  
清水 紀弘

## CSR方針

基本方針のもと今年度の重点実施項目として、以下を掲げ活動を推進しています。

### 基本方針

社会と共存を目指した社会貢献活動の推進と、研究開発成果の質的向上

### 重点実施事項

- ① 研究開発活動における環境負荷軽減と、社会貢献活動の継続
- ② 環境負荷軽減を意識した、材料・製品開発の実践と、技術・プロセス開発の推進
- ③ SQC活動推進を通じた、研究開発成果の品質向上

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

安全活動は、研究活動とともに業務の両輪と捉え、優先的な課題として取り組んでいます。安全と環境保全を合わせて構築したEMSを継続しており、2014年3月5～6日の審査において更新いたしました。

基本方針として、労働災害・保安事故の防止、疾病予防を

掲げ、全員参加による活動を行っています。2013年度からは、職制安全パトロール等に加えて、各研究部門間のクロスパトロールを実施中です。

今後も、コミュニケーションを意識した、きめ細かい活動を推進してまいります。

### 環境

センター本館の竣工によって、大幅な省エネが実現します。LED照明の利用や赤外線吸収ペアガラスの採用により、エネルギー効率が大幅に向上しました。エントランス入り口の庇や2階窓のルーバーに採用した、当社の特殊コンクリート製品「サクセム」は、非常に薄くできることから景観確保と遮光の両立が可能となる新技術です。

研究活動では、リチウム二次電池やエネルギー関連材料の開発を強化しているほか、建築土木などのインフラ工事における省エネ工法の開発等を積極的に推進しています。また今後は、センター内の緑化も推進してまいります。



新技術サクセムルーバー

### コミュニケーション

毎年恒例の「イノベーションFESTA」を8月30日に開催、約140名の所員が参加して大盛況でした。

一方、地域とのコミュニケーション活動では、近隣小学校の方々の見学会実施のほか、8月3、4日には「夢・化学21委員会」主催の「子ども化学実験ショー」にも昨年に続き参加しました。

センター本館は全域にわたり可能な限り壁をなくし、所員同士が交流しやすい設計を採用しています。今後はい

ろいろな企画を出しながら、さらなるセンターの活性化を推進していきます。



イノベーションFESTAの様子

子ども化学実験ショーの様子

### 環境パフォーマンス

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	—	0.1	0.1	0.1	0.1
PRTR法対象物質排出量	トン	—	0	0	0	0
NOx排出量	トン	—	0	0	0	0
SOx排出量	トン	—	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	—	0	0	0	0
水利用量	千m <sup>3</sup>	—	8	8	8	—
COD(BOD)排出量	トン	—	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	—	130	120	100	100
廃棄物最終処分量	トン	—	0	0	0	0



# メルバウ工場 (デンカシンガポール プライベートリミテッド)



## 事業所概要

**工場概要** 1980年シンガポール石油化学コンプレックスプロジェクトに参画し設立されたデンカシンガポール最初のプラントです。シンガポール石油化学が集積するジュロン島において、アセチレンブラックの製造を行っています。1984年に50%プレス設備を稼働開始し、1997年に増設を実施、2002年には粒状設備を新設しました。

**所在地** Office : 4Shenton Way #29-02 SGX Centre 2, Singapore 068807  
Tel.65-6225-6120  
Plant : 300 Ayer Merbau Road, Singapore 628282  
Tel.65-6867-8496

**従業員数** 50名(社員33名、協力会社17名)(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

私たちメルバウ工場では、2014年7月9日で4年間無事故・無災害を達成する見込みです。無事故・無災害を今後もさらに継続するため、「自分を守り、一緒に働く仲間を守る安全活動」に注力していきます。



General Manager 古賀 祐司

## CSR方針

- ① 無事故・無災害の継続
- ② 保安基準等の設定背景、根拠の明確化と教育の実施
- ③ 自分を守り、一緒に働く仲間を守る安全活動の実施

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

- ① 無事故・無災害達成(3年間)
- ② HAZOP(Hazard and Operability Studies)  
実施：摘出した課題への対応が未完了
- ③ PCS社\*との合同緊急訓練(年4回実施)
- ④ 従業員への事例を活用した教育強化(安全・保安)：  
月1回の安全会議で実施  
今後も各活動を継続して実施いたします。



PCS社との合同緊急訓練

\*PCS社：Petrochemical Corporation of Singapore (Pte) Ltd.

### 環境

- ① 環境事故ゼロを達成
- ② 従業員への事例を活用した教育(環境・衛生)を実施  
今後も環境事故ゼロ継続のために活動を強化していきます。

### コミュニケーション

- ① 安全懇談会にて全員で現状課題を議論(毎月1回)
- ② 工場長による現場作業員への声掛けと作業前・中の注意喚起  
今後もこれらの活動を継続してまいります。



メルバウ工場一同

# セラヤ工場 (デンカシンガポール プライベートリミテッド)



## 事業所概要

**工場概要** セラヤ工場は1998年にGPPS製造プラントとして生産を開始し、2006年にはMS樹脂「TXポリマー」およびSBC樹脂「クリアレン」プラントを増設、2012年4月にはイミド化ポリマー「デンカIP」のプラントを稼働させ、4プラント合計で、年間325,000トンの生産能力となりました。工場内にはテクニカルセンターも設置する、スチレン系樹脂事業の一大拠点です。

**所在地** Office : 4 Shenton Way #29-02 SGX Centre 2, Singapore 068807  
Tel.65-6225-6120  
Plant : 40 Seraya Avenue, Singapore 627873 Tel.65-6867-6089

**従業員数** 75名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

セラヤ工場は1997年にポリスチレンの製造を開始して以来、2006年にはMS樹脂、SBC樹脂、2012年にはIP樹脂と事業規模を拡大し、今ではDENKAを代表する製造拠点にまで成長してきました。「DENKA100」の目標でもある海外売上比率50%以上の一端を担うべく、シンガポールナショナルスタッフとともに、生産活動を通じた社会への貢献に努めてまいります。



General Manager 川村 禎生

## CSR方針

シンガポールから世界各国でのビジネスを展開する当工場として、CSRの推進は当然とも言える企業活動です。DENKAの最前線としてWorld wideに信頼されるために、CSRに取り組みます。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

安全は、すべての生産活動・企業活動に優先します。化学工場としての潜在的な危険に適切に対処するため、法令遵守にとどまらない自発的な安全活動を継続展開していきます。



Security and Safety Working Groupにて Outstanding ClusterとしてIswaran首相府相(中央)から表彰を受ける川村GM(左より2番目)

### 環境

シンガポールでは省エネルギー法が施行され、環境保全に対する意識はより一層高まっています。限りある資源を消費して生産活動を行う中で、環境と共生すべく技術の改善を進めていきます。

### コミュニケーション

Seraya工場内に設置されているテクニカルセンターでは、シンガポール科学技術研究庁(A\*STAR)物質材料工学研究所(IMRE)とタイアップしての研究活動を開始しました。シンガポールの生産拠点として、地元根付いた研究活動を行っていきます。



IMREとの協業

# トアス工場 (デンカアドバンテック プライベートリミテッド)



## 事業所概要

**工場概要** トアス工場は溶融シリカフィラーの海外生産拠点として、1991年に操業を開始しました。本製品の主用途となる半導体パッケージの高性能化、環境対応に特化した球状タイプの生産に集中し、品質向上や生産体制の強化を進めています。大牟田工場との連携のもと、当場からは中国、東南アジアの市場を中心に製品を供給しています。

**所在地** Office : 4 Shenton Way #29-02 SGX Centre 2, Singapore 068807  
Tel.65-6321-9530  
Plant: 11A Tuas Avenue 20, Singapore 638823 Tel.65-6861-0004

**従業員数** 60名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

近年、溶融シリカフィラーの主用途である半導体封止材を取り巻く市場環境は厳しく、事業収益確保のためトアス工場従業員一丸となり工程改善、生産技術向上に取り組んでいます。当状況下においても、工場の保安、従業員の安全確保は最重要項目であり、継続して安心して働ける職場環境を築き上げるべく安全活動を推進しています。



General Manager 内藤 栄俊

## CSR方針

- ① 工場の保安・従業員の安全を確保
- ② 省エネ、省資源推進による環境負荷低減
- ③ 品質リスク管理によるクレーム防止、顧客満足度の向上
- ④ 市場の需要・技術動向にマッチした供給体制の整備
- ⑤ 工程改善と生産技術向上によるコストダウンの推進

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

パトロールや緊急時対応訓練等の定例活動に加え、2013年度から「作業手順の見直し」活動を始めました。2014年度は災害事例勉強会を行い、類似作業における「作業手順の見直し」を継続します。



消防訓練

作業手順見直し活動

- ・ポリエチレンカバー、フレコンバッグ、木製パレット等のリサイクル
- ・再生プラスチックパレットの利用
- ・化学品・油等の漏洩防止訓練



化学品漏洩防止訓練

シンガポールの省エネ政策対応のため、社員1名がエネルギー管理士資格を取得しました。

### コミュニケーション

従業員表彰、従業員親睦のためディナーパーティーを開催しています。



ディナーパーティー

### 環境

- ・生産性向上による電力・ガス原単位の削減、不使用箇所の消灯等の省エネ活動

# サウス工場 (デンカアドバンテック プライベートリミテッド)



## 事業所概要

**工場概要** サウス工場はウィッグ・ヘアピース向け合成繊維「トヨカロン」の製造工場として2013年6月より操業を開始しました。当社は1952年に世界に先駆けてPVC繊維の工業化に成功して以来、アフリカやアメリカ市場を中心に出荷しています。アフリカの頭髮製品市場は今後一層の拡大が見込まれており、大船工場に続く第二の拠点として世界の需要に応えてまいります。

**所在地** Office : 4 Shenton Way #29-02 SGX Centre 2 Singapore 068807  
Tel.65-6224-1305  
Plant: 6 Tuas South Drive Singapore 637046 Tel.65-6412-9200

**従業員数** 37名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

サウス工場は、アフリカ市場向け頭飾用繊維の生産拠点として2013年6月に操業を開始しました。工場建設時にはマザー工場である大船工場の協力のもと、作業経験のない現地オペレータの教育や機器の微調整に注力し、約1年操業して生産も軌道に乗るようになりました。今後も大船工場と一丸となり、さらなる品質向上、コストダウンの推進を行ってまいります。



General Manager 黄野 隆文

## CSR方針

- ① 無事故・無災害の継続と安全活動のブラッシュアップ
- ② リサイクル・省エネ推進による環境負荷低減
- ③ 生産体制強化による品質向上とコストダウン

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

サウス工場では、2週間に1回の定期的な安全パトロールを実施し、工場内の5S、不安全箇所・行動をチェックし、対策ミーティングにおいて各指摘事項に対する対応の検討を行っています。今後はヒヤリハットの摘出、各種講習受講や資格取得を推進し、安全体制の強化を継続します。



安全パトロール

- ② 蒸気原単位削減によるボイラー燃焼時のCO<sub>2</sub>排出削減
- ③ 不要箇所での照明、エアコンのオフの励行

### コミュニケーション

毎日の朝礼のほか、各担当者が集合して安全項目を含む各課題の対応状況、今後の計画について議論しています。さらに、隣接する他社工場と緊急時の連絡先を交換し、万が一の事態が発生した場合の相互協力を備えています。また、5月には社員親睦を深めるため、ディナーパーティーを実施しました。今後も毎年の恒例行事とする予定です。



週例ミーティング



ディナーパーティー

### 環境

- 次の活動を継続して、環境負荷低減を推進します。
- ① 生産性向上による電気・ガス・水の原単位削減

# 電化精細材料(蘇州)有限公司



## 事業所概要

**工場概要** 当社は、中国における電気化学工業の戦後初の生産販売会社として、2006年1月に設立されました。電子包装材料のキャリアテープのマイクロスリット製品の製造および中国内ユーザーの品質対応を行っています。

**主要製品** 電子包装材料用キャリアテープ

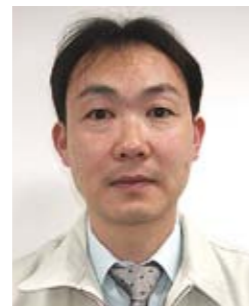
**所在地** 中国江蘇省蘇州市蘇州工業園区興浦路333号現代工業坊9B  
Tel.86-512-6287-1088

**従業員数** 84名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

当社は開業から8年が過ぎ、着実な業容の拡大と実績を積み上げてきました。これは、中国における日系企業として「当社のあるべき姿」を、従業員の皆さんとともに目指してきた結果です。

昨年度からは、高度な4S活動と安全文化の構築をスタートしました。今後も、常に進歩する会社を作り上げていきます。



総経理 門屋 雄一

## CSR方針

- ①安全活動の充実を図り、無事故・無災害を継続する
- ②環境保全への取り組みを強化する
- ③教育・訓練を積極的に実施し、職場のレベルアップの努力を継続する

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

当社は「危険個所の撲滅」と「安全作業ルールの遵守」を目標に安全活動を継続してきました。本年度は、「安全で綺麗で動きがいのある会社を社員全員でつくる」をスローガンとし、安全文化の構築を目指して活動を強化していきます。

### 環境

産業廃棄物の削減を目指し、製造収率の向上を継続的に取り組んでいます。また、CO<sub>2</sub>削減活動としては電力使用量の削減を目的とし、各電源スイッチに「こまめに消灯」を表示し、無駄な電灯使用の撲滅に取り組んでいます。

### コミュニケーション

従業員のコミュニケーション活動としては、年1回の旅行会とスポーツ大会を実施しています。会社の発展と安全文化の構築は全従業員の「和」が大切です。今後もコミュニケーション活動の活性化に努めていきます。



2013年10月 旅行会

# 電化新材料研究(蘇州)有限公司



## 事業所概要

**工場概要** 当研究所は、中国市場におけるデンカ製品の需要家から寄せられる分析、検査、性能評価、改良などの要望に迅速に応えるべく2010年12月に設立されました(営業開始2011年8月)。現在、特殊合成ゴム(クロロプレン、ER)、「ハードロック」(2液アクリル系接着剤)、コンクリート用特殊混和材の研究開発を行っているほか、2013年度からは、食品包材用機能性シート、仮固定用接着剤「テンプロック」の研究にも着手しています。

**所在地** 中国江蘇省蘇州市蘇州工業園区興浦路333号現代工業坊1D  
Tel.86-512-6280-6808

**従業員数** 18名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

電化新材料研究(DCD)は、業務開始から4年目を迎えました。当初は、クロロプレンゴム、機能性接着剤の研究開発でしたが、現在は、セメント用特殊混和材、機能性シート、仮固定用接着剤も手掛け、業務範囲が拡大しました。テクニカルサービス向上、市場ニーズへの迅速な対応、中国市場に適應する製品開発を進め、「中国で発生した課題は、中国で解決する」ために、技術と品質の向上に努めてまいります。



総経理 池田 哲美

## CSR方針

- ①無事故・無災害
- ②教育・訓練の充実化による人材育成の推進
- ③職場環境の向上と法令遵守
- ④製品開発／顧客対応での品質の向上

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

- ①研究機器の基準書・手順書の整備  
各グループ(CR、食包、ハードロック、特混)とも1件/月以上を目標に整備中(中国語および日本語)。写真、図を多く取り入れわかりやすくするとともに安全ポイントも記載する。
- ②安全活動の定着
  - ・毎月、安全会議を開催し、安全活動の進捗確認、安全パトロール、討議を実施している。
  - ・各自毎朝、安全ノートにその日の作業と安全遵守事項を記載。
  - ・安全ルール遵守の自己評価表を作成し、週単位で評価する。グループ内の相互評価も実施。
  - ・デンカの安全資料(ヒヤリハット事例集等)を中訳し、読み合わせを行う。
  - ・他事業所の災害事例を検討し、自職場との類似点を抽出し、対策を検討する。
  - ・今後の予定  
上記活動の継続のほか、新たに提案制度を取り入れて、無事故・無災害を達成する。

### 環境

使用した有機溶剤、試験により発生した有害性の排水類については、すべて専門業者に処理を委託している。今後も環境への配慮は万全に対応していく。

### コミュニケーション

- ・社内会議
  - ①安全会議(1回/月) ②始業前ミーティング(毎朝)
  - ③課題検討会(業務の進捗報告会 1回/月)
- ・コミュニケーション活動
  - ①旅行会 ②バーベキュー等の野外活動
  - ③忘年会等の会食



従業員一同

# デンカポリマー株式会社



## 会社概要

**会社概要** 当社は1966年に設立しプラスチック軽量食品容器の総合メーカーです。デンカグループの総合力を基盤として多層・複合シートの特性を追求しながら、包装適性・デザイン・色彩などの商品価値を向上させて、多面的なパッケージの可能性に挑戦しています。

**主要製品** OPS製品、惣菜容器、弁当容器、寿司容器、刺身容器、PSPトレー、ソフト製品、農産品容器、食品包装用ストレッチフィルム

**所在地** 本社：東京都江東区木場1-5-25 Tel.03-5632-9530  
工場：千葉県内3カ所(佐倉、五井、香取)

**従業員数** 528名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

デンカポリマーの基本姿勢は、「安全・安心」の容器を製造・販売することです。

誠実で信頼される企業であることを心に置き、常に「お客様第一」を念頭に考えています。環境・省エネにおきましても当社のお客様が、社会に貢献いただける「環境に優しい安全・安心な製品」の開発と供給を強化してまいります。「いつまでも信頼される、長く存続できる企業」を目指して、一層の努力をいたします。



代表取締役社長 坂本 剛

## CSR方針

デンカポリマーは消費者に身近な商品を扱っており、「安全・安心」を会社方針としています。この「安全・安心」は顧客だけでなく、従業員や株主に対する意味もあり、法令遵守・省エネ・人材育成にも努めています。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

フェースtoフェースの実践によるコミュニケーション強化とともに、デジカメを利用したパトロールによる不安全箇所・行動の抽出に努め、月々の安全衛生委員会に反映させています。今後は基本的な活動を見直し、安全意識を向上させて、昨年度に多かった間接部門および非社員の災害をなくします。



フェースtoフェースのコミュニケーション活動

### 環境

省エネ法における毎年1%以上の原単位削減の完全達成を続けています。環境負荷が少ない軽量化容器の拡大に努めながら、デンカグループの開発力を結集した技術革新を図ってまいります。

### コミュニケーション

各工場ともに、工業団地の活動を通して地域内清掃や地域の産業まつり等に製品容器を提供して、交流を深めています。今後はさらにコミュニケーションを深めるとともに、万一の非常時にも協力し合えるような体制を築いていきます。



新入生歓迎会を兼ねたバーベキュー大会

# デンカ生研株式会社



## 会社概要

**会社概要** デンカ生研は、ワクチンと検査試薬の供給を通じて、人々の生命と健康を守ることを使命として企業活動を行っています。創業以来「予防」をキーワードに、感染症や生活習慣病の撲滅に向けた取り組みを続けています。

**主要製品** インフルエンザワクチン、細菌検査試薬、ウイルス検査試薬、臨床化学検査試薬、免疫血清検査試薬、POCT製品

**所在地** 本社：東京都中央区日本橋室町2-1-1 Tel.03-6214-3231  
工場：新潟県五泉市(新潟工場、鏡田工場)

**従業員数** 598名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

ワクチンと検査試薬という人々の健康を守る製品を製造する企業として、高品質な製品を安定的に供給することが当社の最大の社会的使命です。これからも世界で必要とされる製品の開発・製造を通じて感染症や各種疾病の脅威に挑んでいきたいと考えています。



代表取締役社長 前田 哲郎

## CSR方針

「いのちを尊び、人々の健康を守ることを使命として、社会から信用される企業を目指す」という企業理念に基づき、健康増進への貢献・地域との共生・環境負荷の低減などに積極的に取り組んでまいります。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

リスクアセスメントや安全衛生委員会の積極的な活動により、近年重大な事故や災害は発生していません。今後は企業活動の拡大に伴う、工場の新・増設工事の際の安全確保にも留意し、活動を進めてまいります。



新設された鏡田工場56号棟

### 環境

駅の近傍に位置し、周囲を住宅に取り囲まれている新潟工場では、騒音や排気の問題を重要課題ととらえ継続的に取り組んできました。環境モニター制度により小さなことでもご連絡をいただく体制を整え、問題の発生を未然に防ぐ努力を行っています。

### コミュニケーション

定期的な町内会との交流に加え、健康産業の一翼を担う当社への理解を深めていただくべく、地元で行われる各種スポーツイベントへの協賛や参画を積極的に進めています。



当社が後援しているごせん紅葉マラソン

# シー・アール・ケイ株式会社



## 会社概要

**会社概要** 当社は1963年に、クロロプレンゴムを原料とするコンパウンドおよび成形品の開発・製造・販売を目的として、電気化学工業と高崎市の地元資本が共同出資して設立されました。長年の研鑽と熟練技術を基盤として、土木・建材用止水材・耐火材などに対象分野を広げ、現在は天然ゴムや合成ゴム全般のコンパウンドと加工製品の製造販売を行っています。

**主要製品** 各種ゴムコンパウンド、工業用ゴム製品、熱膨張性耐火ゴム製品、ブチル系粘着テープ、水膨張止水テープ、マンホール用耐震性ジョイント

**所在地** 群馬県高崎市小八木町306 Tel.027-362-7510

**従業員数** 67名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

2013年に当社は50周年を迎え、地域に根ざした個性ある企業としてさらなる成長を続けるため、社員の働きやすい環境を整備するとともに社内外からGood Companyと認められるよう社会的責任を果たしてまいります。

生産設備の老朽化が進んでおり、安全面でも懸念があるため計画的な更新と生産性の向上を図り、収益性を向上させてまいります。



代表取締役社長 髙橋 裕方

## CSR方針

廃棄物の削減とリサイクル率の向上に取り組みます。工場内はカーボンブラック等で汚れやすいためこれの改善にも取り組んでいます。近隣の企業や団体とのコミュニケーションを継続して行い地域への貢献にも配慮します。

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

2013年4月から3S3定運動を推進し、さらにリスクアセスメントの見直しを開始しています。8年間休業災害は発生していませんが、安全レベルは十分でないと感じています。毎日の朝礼で安全衛生に関する注意等を説明しています。

### 環境

定期的に会社内外の清掃と除草を行い、地域に根ざした活動を目指します。当社の環境に対する負荷は比較的低いものの、廃棄物の削減やリサイクル率の向上、省エネルギーへ継続して取り組んでいきます。



定期清掃・除草作業

### コミュニケーション

デンカ渋川工場のソフトボール大会に、2013年度より引き続き参加しています。安全の基本であるコミュニケーションをより活性化する方針を定めるとともに、メンタルヘルスに関しても、社外講師による講演会を全員を対象に開催しました。



デンカ渋川工場のソフトボール大会に参加



創立50周年記念祝賀会

# 日之出化学工業株式会社



## 会社概要

**会社概要** 当社は1949年に設立され、翌1950年に世界に先駆けて開発した磷酸質肥料「ようりん」の生産を開始しました。以来日本のトップメーカーとして、品質の向上と新品种の開発、需要開拓に努め、豊かな土づくりを通して農作物の増産に貢献しています。

**主要製品** 融成磷肥「ようりん」、BMようりん、<sup>ようせいけいさんりん</sup> 熔成珪酸磷肥「とれ太郎」、混合肥料、化成肥料

**所在地** 京都府舞鶴市宇倉谷660 Tel.0773-75-5760

**従業員数** 47名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

当社は、日本最初の融成磷肥「ようりん」メーカーとして、1949年に設立されました。土づくり肥料として親しまれ、現在使用されているりん酸質肥料の中では、当社品が唯一、有機農産物適合資材として認定を受け、安全で環境にやさしい肥料として評価を得ています。

今後ともこれまで培ってきた伝統ある技術を活かして、ニーズに応えられる新製品開発と技術の継承に努力いたします。



代表取締役社長 高木 静雄

## CSR方針

### 基本方針

肥料の製造を通じて社会に貢献し、従業員の自己実現を目指す

### 環境方針

環境マネジメント活動(KESステップ2)を推進して、地球環境との調和を目指す

### 安全方針

自分と仲間の安全を再チェック!

### 品質方針

統計的手法を活用して、工程管理を強化する

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

リスクアセスメント活動と改善提案を主体に、リスク低減に取り組んでいます。現場で作業者を交えて問題点を話し合い、改善項目に優先順位をつけて、月例会議にて進捗を確認する方法で推進しています。

\*昨年度の安全実績：腰痛二件(腰痛防止用腰ベルトの配布、作業方法の見直し)



安全集会

### 環境

環境マネジメント活動(KES\*ステップ2)を主体に、排水系と排ガス系のさらなる技術改善に取り組んでいます。

前者は中和技術の試行と設備化、後者は原料の選定を含めた脱硫技術の改善を推進しています。

\*KES:京都議定書の発祥地。京都が発信する「環境マネジメントシステム」規格。ステップ2は規模の比較的大きな事業所が取り組む規格で、ISO14001とほぼ同じ項目を実施するものです。

## コミュニケーション

ミーティングノートや改善案件への対応を通して、作業者との対話がより深まるよう取り組んでいます。

レクリエーションや組織の一体感が得られる機会を増やして、一層のコミュニケーション向上を目指します。



伊佐津川周辺の清掃活動

# デンカアヅミン株式会社



## 会社概要

**会社概要** 当社は日本重化学工業の花巻工場として1962年に設立され、翌年よりアヅミンの生産・販売を開始いたしました。2003年の日本重化学工業から電気化学工業への事業譲渡に伴い、腐植酸関連肥料の生産を目的とした「デンカアヅミン株式会社」となりました。今後も、腐植酸肥料のパイオニアとして、農業生産に貢献してまいります。

**主要製品** 「アヅミン」(腐植酸苦土肥料)

**所在地** 岩手県花巻市二枚橋第5地割118 Tel.0198-26-2131

**従業員数** 28名(2014年3月31日現在)

## トップメッセージ

当社は土壌改良資材「アヅミン」を50年にわたって製造しています。硝酸、重油等の危険物の取り扱いを中心とした安全教育や訓練を通じて、無事故・無災害を継続していますが、今後も従業員とともに精進してまいりたいと考えています。



代表取締役社長 中村 守

## CSR方針

- ① 無事故・無災害の継続 (当面の目標：1,000日)
- ② 環境保全管理の遂行
- ③ 地域住民との信頼関係の醸成

## 2013年度の活動実績と今後に向けて

### 安全

- 毎月1回、各小委員会(KY・ヒヤリハット、安全パトロール、省エネ、物流)の活動を通じて、工場方針の周知徹底とそれぞれの課題への対策立案を行ってきました。おかげさまで、昨年度末時点で839日間無事故・無災害を継続中です。
- 各現場に配置されている、入社後数年未満の若手社員に対する、安全行動の意識付け、習慣化が重要と考えています。
- 「硝酸」の安全な取り扱いの教育の徹底とともに、漏えい事故を防止するため、消防当局と連携しながら訓練を行っていく予定です。

### 環境

- 花巻市と締結している公害防止協定に基づき、大気、水質、騒音、振動を測定し、基準内であることを報告いたしました。
- 当該特有の問題である「NOx」をさらに低減する方法については、引き続き調査を進めてまいります。

### コミュニケーション

- 2013年7月5日に、当社がデンカグループとして再出発して10周年を迎えたことから、当社全従業員と協力会社、デンカ本社・アグリプロダクツ部関係者の出席のもと、記念祝賀会を開催しました。



アヅミン製販10周年記念祝賀会

- 式典では、製造管理方法の改善、環境対策をはじめとした設備改善、品質改良の歩みの発表を行いました。次の10年間へ向けた、Good Companyとしてのさらなる進化のため、従業員一人ひとりのベクトルを合わせることができました。
- 地域住民との交流としては、地元の「二枚橋地区公害対策協議会」の一員として総会や懇親会に参加するとともに、会員を招いて当社の工場見学を実施いたしました。
- 2013年度も花巻市主催の「はなまき産業大博覧会」に展示を行い、近隣の方々にアヅミン肥料への理解を深めていただくことができました。

## 環境パフォーマンス デンカシンガポール プライベートリミテッド メルバウ工場

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4
PRTR法対象物質排出量	—	—	—	—	—	—
NOx排出量	トン	4	1	1	1	1
SOx排出量	トン	—	—	—	—	—
ばいじん排出量	トン	—	—	—	0	0
排水量	千m <sup>3</sup>	41,448	—	34,023	44,296	45,000
COD(BOD)排出量	トン	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1
産業廃棄物発生量	トン	126	151	254	254	245
廃棄物最終処分量	トン	—	—	—	—	—

## 環境パフォーマンス デンカシンガポール プライベートリミテッド セラヤ工場

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	3.1	2.9	3.4	3.0	3.4
PRTR法対象物質排出量	—	—	—	—	—	—
NOx排出量	トン	5	5	5	5	5
SOx排出量	トン	1	1	1	1	1
ばいじん排出量	トン	—	—	—	—	—
排水量	千m <sup>3</sup>	64	58	98	98	100
COD(BOD)排出量	トン	2	2	3	3	3
産業廃棄物発生量	トン	301	232	574	785	600
廃棄物最終処分量	トン	—	—	—	—	—

## 環境パフォーマンス デンカアドバンテック プライベートリミテッド トアス工場

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	2.7	2.7	2.6	2.5	2.4
PRTR法対象物質排出量	—	—	—	—	—	—
NOx排出量	トン	375	548	322	501	501
SOx排出量	トン	0	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	—	—	—	—	—
排水量	千m <sup>3</sup>	96,450	105,190	99,050	96,540	95,580
COD(BOD)排出量	トン	0	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	451	503	383	411	403
廃棄物最終処分量	トン	404	449	348	381	373

## 環境パフォーマンス デンカアドバンテック プライベートリミテッド サウス工場

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	—	—	—	0.2	0.4
PRTR法対象物質排出量	—	—	—	—	—	—
NOx排出量	トン	—	—	—	1	2
SOx排出量	トン	—	—	—	0	0
ばいじん排出量	トン	—	—	—	0	0.1
排水量	千m <sup>3</sup>	—	—	—	3	6
COD(BOD)排出量	トン	—	—	—	—	—
産業廃棄物発生量	トン	—	—	—	140	400
廃棄物最終処分量	トン	—	—	—	0	0

環境パフォーマンス 電化精細材料(蘇州)有限公司

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	—	—	—	0.05	0.05
PRTR法対象物質排出量	—	—	—	—	—	—
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	0	0	0	0	0
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	0	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	—	—	—	0	0
排水量	千m <sup>3</sup>	20	80	50	80	50
COD(BOD)排出量	トン	0	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	39	99	130	112	109
廃棄物最終処分量	トン	39	99	130	112	109

環境パフォーマンス 電化新材料研究(蘇州)有限公司

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	—	—	—	—	—
PRTR法対象物質排出量	—	—	—	—	—	—
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	—	0	0	0	0
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	—	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	—	—	—	0	0
排水量	千m <sup>3</sup>	—	0.2	0.3	0.9	0.1
COD(BOD)排出量	トン	—	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	—	1	9	19	0
廃棄物最終処分量	トン	—	1	9	18	0

環境パフォーマンス デンカポリマー株式会社

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	1.3	1.2	1.2	1.2	1.3
PRTR法対象物質排出量	トン	0	0	0	0	0
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	0	0	0	0	0
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	0	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	—	—	—	0	0
排水量	千m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0
COD(BOD)排出量	トン	0	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	169	112	103	113	110
廃棄物最終処分量	トン	1.9	2.1	0	0	0

環境パフォーマンス デンカ生研株式会社

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
PRTR法対象物質排出量	トン	0	0	0	0	0
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	3	5	4	3	3
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	3	3	2	3	3
ばいじん排出量	トン	—	—	—	0	0
排水量	千m <sup>3</sup>	564	536	674	440	500
COD(BOD)排出量	トン	0	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	351	386	337	275	275
廃棄物最終処分量	トン	55	48	41	42	42

環境パフォーマンス シー・アール・ケイ株式会社

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	0.09	0.08	0.08	0.08	0.08
PRTR法対象物質排出量	トン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	0	0	0	0	0
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	0	0	0	0	0
ばいじん排出量	トン	—	—	—	0	0
排水量	千m <sup>3</sup>	74	73	74	75	74
COD(BOD)排出量	トン	0	0	0	0	0
産業廃棄物発生量	トン	73	80	75	84	80
廃棄物最終処分量	トン	24	27	34	37	35

環境パフォーマンス 日之出化学工業株式会社

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	1.8	2.2	2.3	2.4	2.3
PRTR法対象物質排出量	トン	2	3	3	5	5
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	95	220	177	190	185
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	68	130	173	118	110
ばいじん排出量	トン	—	—	—	10.3	10.0
排水量	千m <sup>3</sup>	1,400	1,390	1,570	1,880	1,850
COD(BOD)排出量	トン	2	2	2	2	2
産業廃棄物発生量	トン	—	83	103	244	100
廃棄物最終処分量	トン	49	41	38	184	35

環境パフォーマンス デンカアツミン株式会社

項目	単位	10年度実績	11年度実績	12年度実績	13年度実績	14年度目標
エネルギー原単位	—	—	—	—	—	—
CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー起源)	万トン	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5
PRTR法対象物質排出量	トン	0	0	0	0	0
NO <sub>x</sub> 排出量	トン	32	35	27	29	29
SO <sub>x</sub> 排出量	トン	1	2	1	2	2
ばいじん排出量	トン	—	—	—	—	—
排水量	千m <sup>3</sup>	596	596	596	596	596
COD(BOD)排出量	トン	2	4	2	4	4
産業廃棄物発生量	トン	43	24	37	78	32
廃棄物最終処分量	トン	41	32	44	63	24